

# 2026年3月期 第2四半期 決算説明会資料

**YUSHIN**

スタンダード市場 証券コード6482

2025年11月17日

YUSHIN株式会社

## 2026年3月期上期業績

- ・ 売上高 ：アジアでの販売が増加した一方、メディカル関連特注機の売上の大幅な減少により**減収**
- ・ 営業利益：売上高の減少に加え、いずれも中長期的な成長を見据えた、積極的な人財投資による人件費の増加や、開発投資に伴う研究開発費の増加などの影響を受け**減益**

## 2026年3月期予想（予想修正）

- ・ 売上高 ：中長期的には人手不足等による自動化需要の継続を見込む一方、足元では欧州を中心とした設備投資需要の低迷などにより市場動向の不透明さが続き**減収予想**
- ・ 営業利益：売上高の減少を見込む中、コスト削減と生産性向上に取り組むも上期の減益影響により**減益予想**

## 株主還元

- ・ 2026年3月期の中間配当は**10円**とし、年間配当予想は**20円**に決定（前年同額）
- ・ 資本効率の向上および株主還元の充実のための施策として、**10億円を上限に自己株式取得の実施**を決定

# 2026年3月期上期実績と通期予想



	2025/3		2026/3			
	上期	通期	上期		通期（予想）	
	金額	金額	金額	伸び率*	金額	伸び率*
売上高	百万円 12,133	百万円 26,126	百万円 10,629	% △12.4	百万円 23,000	% △12.0
売上総利益 (売上総利益率)	4,895 40.3%	10,766 41.2%	4,148 39.0%	△15.3	9,400 40.9%	△12.7
営業利益 (営業利益率)	911 7.5%	2,586 9.9%	147 1.4%	△83.8	1,500 6.5%	△42.0
経常利益 (経常利益率)	738 6.1%	2,535 9.7%	163 1.5%	△77.9	1,500 6.5%	△40.8
親会社株主に帰属する 中間純利益 (純利益率)	534 4.4%	1,692 6.5%	115 1.1%	△78.4	1,000 4.3%	△40.9
*「伸び率」は対前年同期比						
<為替レート> 米ドル/円	152.63円	152.58円	146.04円		140.00円	

2026/3上期（実績）

2026/3通期（予想）

売上高

前期比12.4%減の10,629百万円

ロボットは前期比 2.5%増

- + 中国を中心にアジアでの売上が堅調
- 米国政策動向の不透明さによる設備投資意欲の低下
- 欧州における景気低迷の長期化

特注機は前期比 56.9%減

- メディカル関連大口案件の売上が前期比大幅減
- + 人手不足による自動化需要

前期比12.0%減の23,000百万円

ロボットは前期比 6.8%増

- + 国内・北米における需要が堅調
- パレタイジングロボットの販売が伸長
- 欧州を中心に設備投資動向が不透明

特注機は前期比 60.7%減

- メディカル関連大口案件の需要の低迷
- + 人手不足による自動化需要の継続

営業利益

前期比83.8%減の147百万円

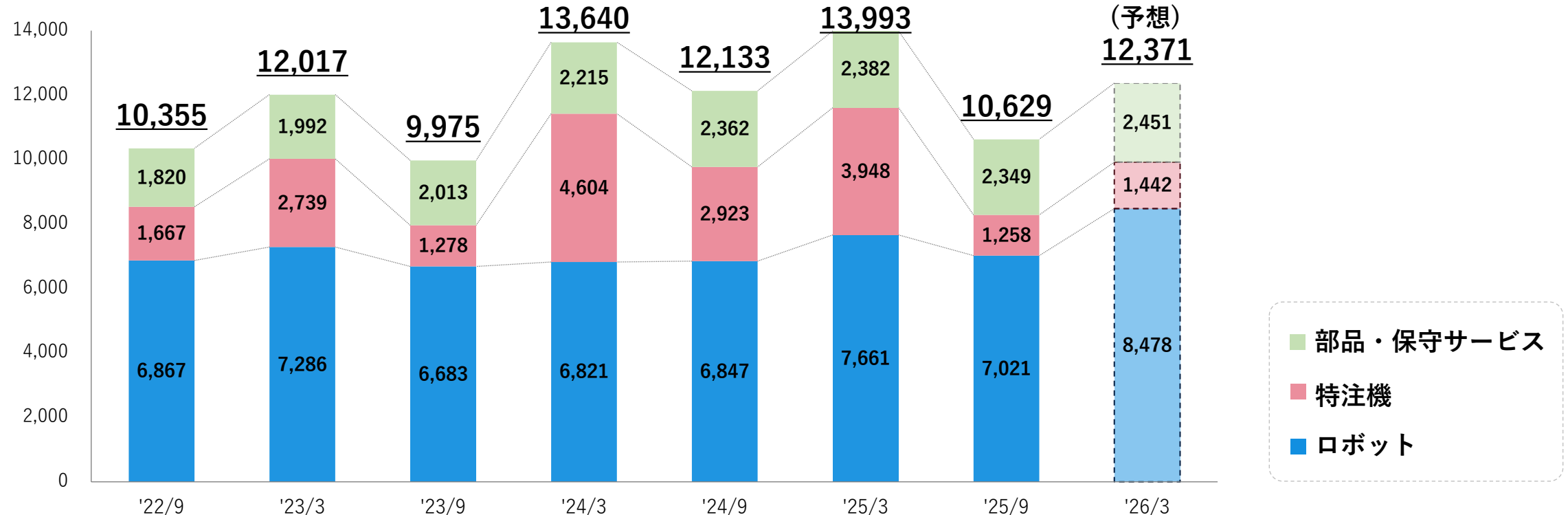
- 売上高の減少
- エネルギー・原材料価格の高騰
- 積極的な人財投資に伴う人件費の増加
- 開発投資に伴う研究開発費の増加

前期比42.0%減の1,500百万円

- 売上高の減少
- エネルギー・原材料価格の高騰
- 積極的な人財投資に伴う人件費の増加
- 開発投資に伴う研究開発費の増加

- '26年3月期上期は、**メディカル関連特注機**の売上が大幅に減少した中、**ロボット**が堅調に推移
- '26年3月期下期も引き続き**メディカル関連特注機**の需要低迷が見込まれる中、**パレタイジングロボット**を含む各種ロボットの堅調な販売を見込む

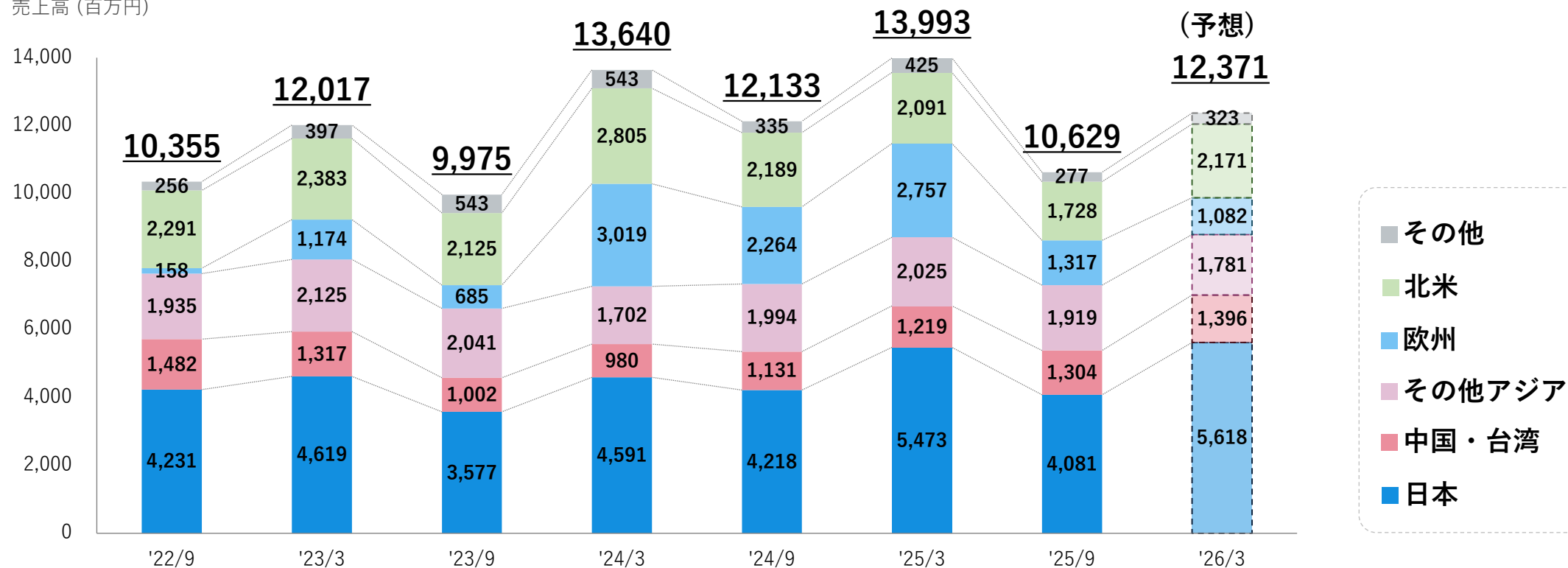
売上高（百万円）



# 地域別売上高（半期毎）

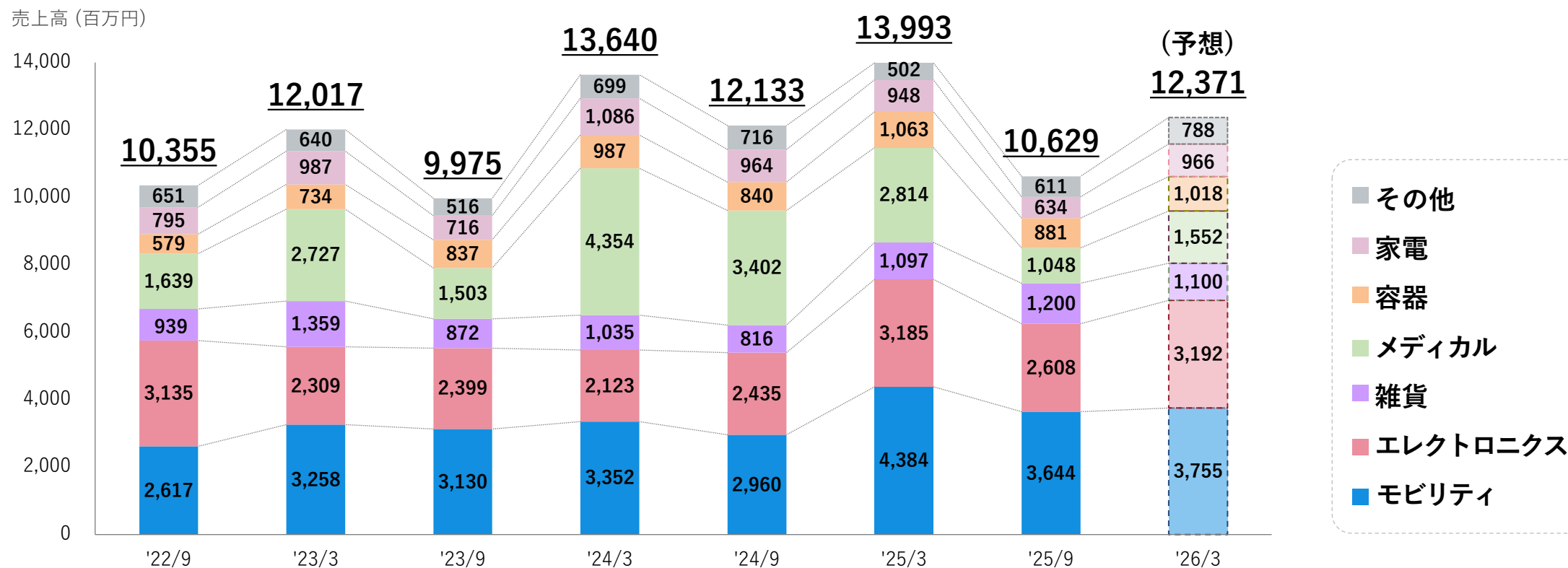
- '26年3月期上期は、中国を中心にアジアでの売上が比較的堅調であるものの、欧州における景気低迷の長期化と北米を中心とした設備投資意欲の低下が影響
- '26年3月期下期は、国内・北米で堅調な売上を見込むものの、欧州を中心に依然設備投資動向が不透明

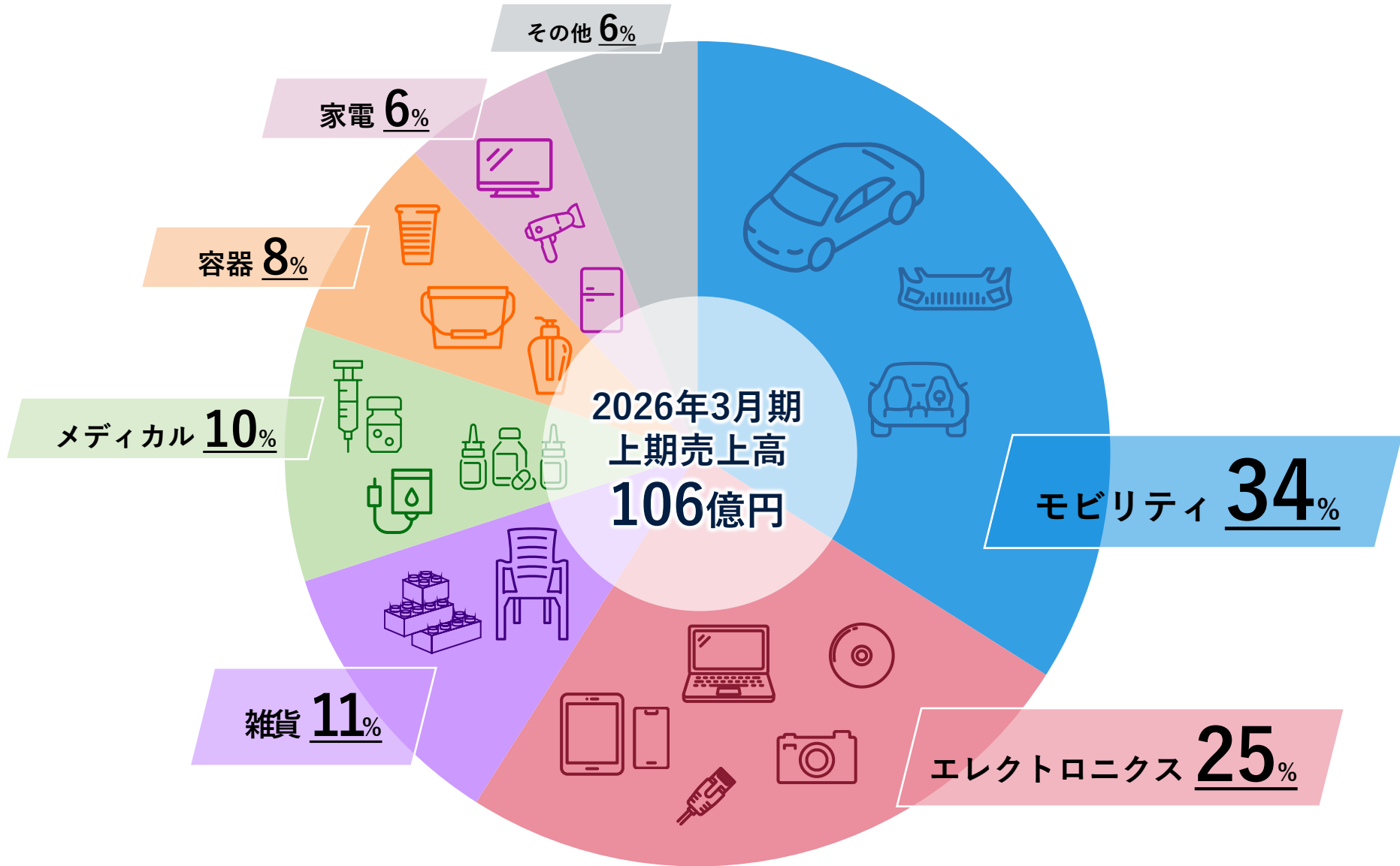
売上高（百万円）



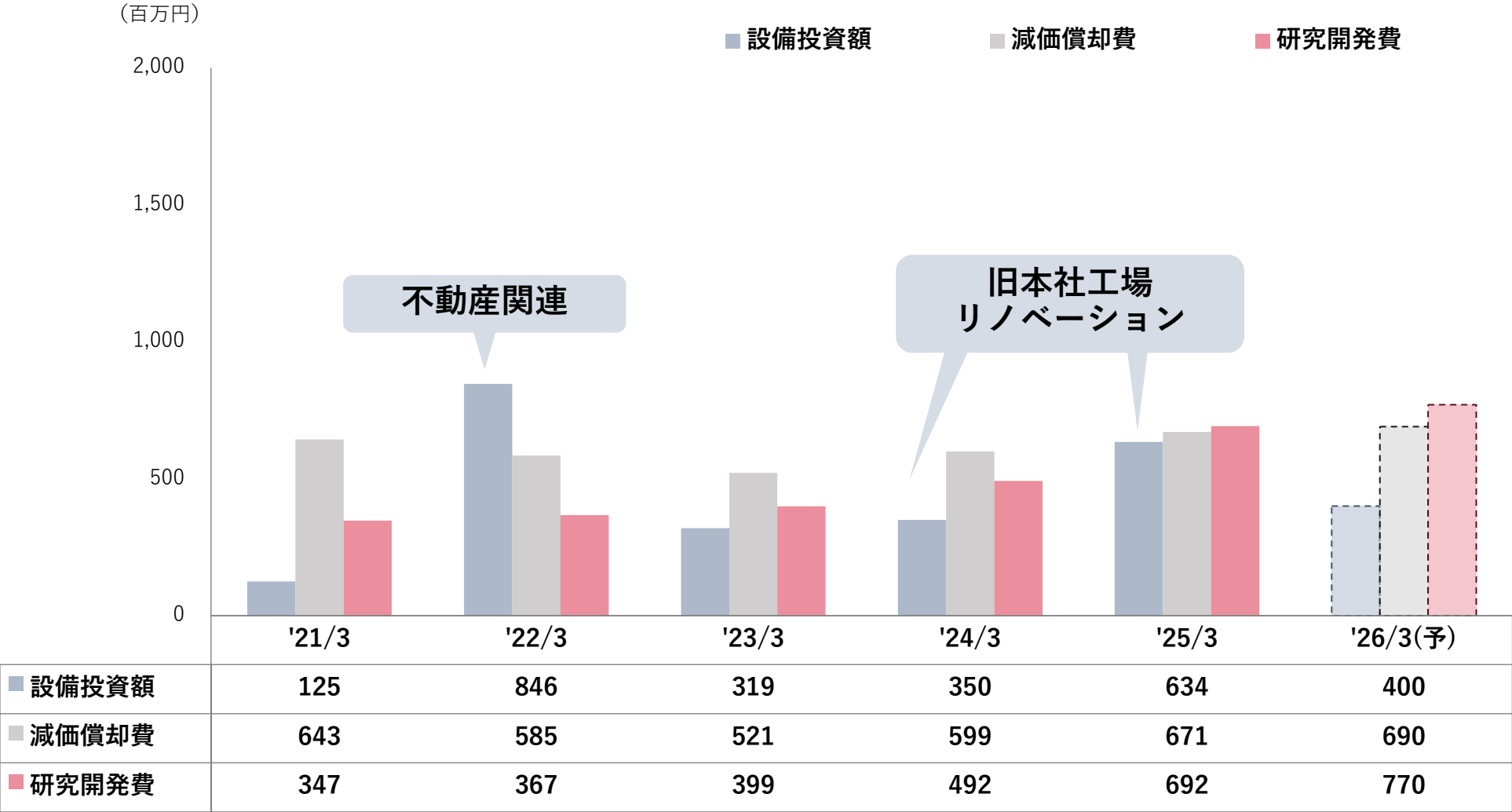
# 業種別売上高（半期毎）

- '26年3月期上期は、**メディカル**における売上が大幅に減少した中、他業種は比較的堅調に推移
- '26年3月期下期も引き続き**メディカル**の需要低迷が予想される中、他業種は堅調な販売を見込む









## 経営理念

我社は人間尊重を基本として、  
公正かつ健全な「力と知恵と勇氣」をもって行動し、  
信頼される会社として歩み続けます。  
世界に向けて常に革新ある技術を創造し、広く社会に貢献します。  
我々仲間は一致協力して社業の発展に尽くし、  
心豊かな生活を得ることを目指します。

## 目指す姿

お客様に喜ばれる商品とサービスを提供し、信頼される会社  
事業活動を通して、社会に貢献する会社  
やりがいを持って安心して働ける会社

## 基本方針

### お客様を取り巻く社会課題・ 環境変化の解決

サステナビリティ経営の重要課題（マテリアリティ）として「労働安全性の強化」、「お客様工場の生産性向上」、「気候変動への対応」を設定し社会課題解決や環境変化の解決に向けた取り組みを進めてまいります。

### ステークホルダーの経済価値創出

自動化機器の提供を通じた顧客企業の利益創出、サプライヤーとの双方向のコミュニケーションによる共存共栄、株主価値向上等によりステークホルダーの経済価値の向上に取り組んでまいります。

### 経営基盤の強化

サステナビリティ経営の重要課題（マテリアリティ）として「人的資本の強化」、「コーポレート・ガバナンスの強化」を設定し中長期的な成長に向けた基盤づくりを強力に進めてまいります。

## 事業戦略

①

未来を切り拓く  
人財への投資

②

グローバル販売力の強化

③

商品力の強化

④

新規事業の開拓

## 経営目標

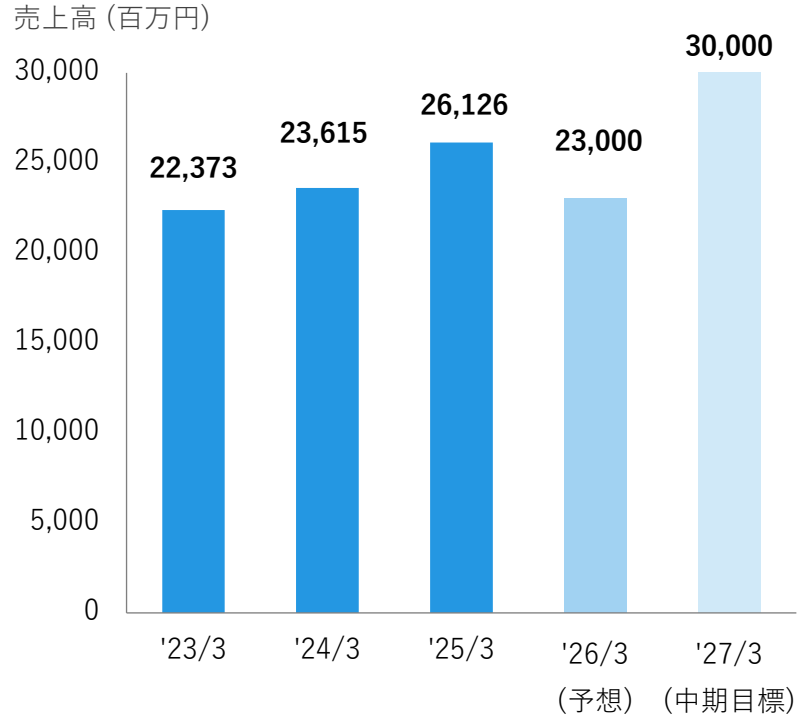
### 中期経営目標

**連結売上高（2027年3月期） 300億円**  
(2025年3月期：261億円)

### 長期的に目指す経営指標

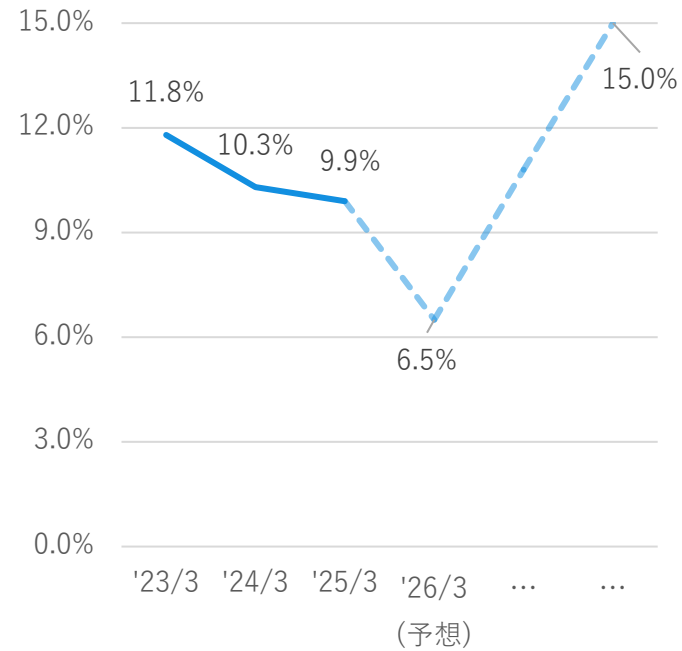
・ **営業利益率 15%以上**  
(2025年3月期：9.9%)  
・ **ROE 8%以上**  
(2025年3月期：4.9%)

## 連結売上高 (2027年3月期)



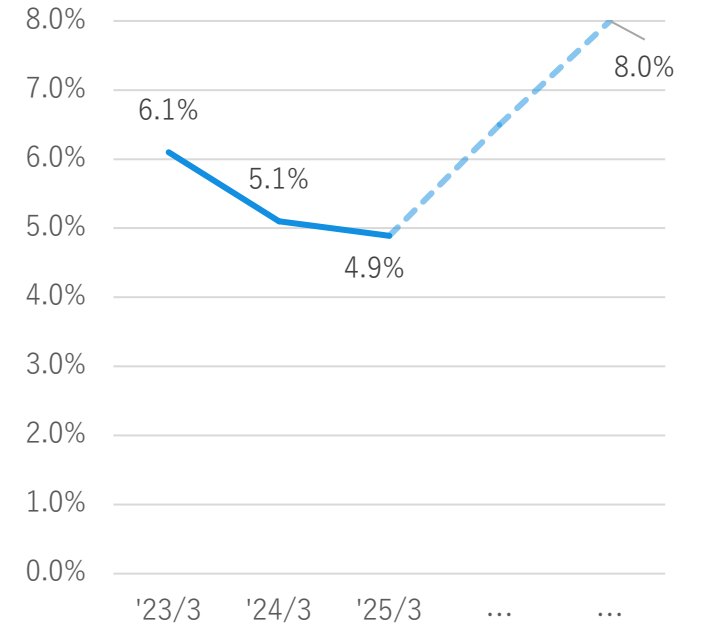
- ✓ 各地域において**市場シェア拡大**に向けた取組みを推進
- ✓ グローバルにおける**設備投資需要の回復**を見込む

## 営業利益率



- ✓ 直近は**中長期的な成長を見据えた先行投資**により利益率が低下
- ✓ 先行投資を**早期に生産性向上の成果につなげる**

## ROE



- ✓ 長期にわたって使用される設備機械をお客様に安心してお使いいただくため、**強固な財務基盤を維持**
- ✓ **中長期的な成長を見据えた先行投資、株主還元**により向上を図る

## 01.

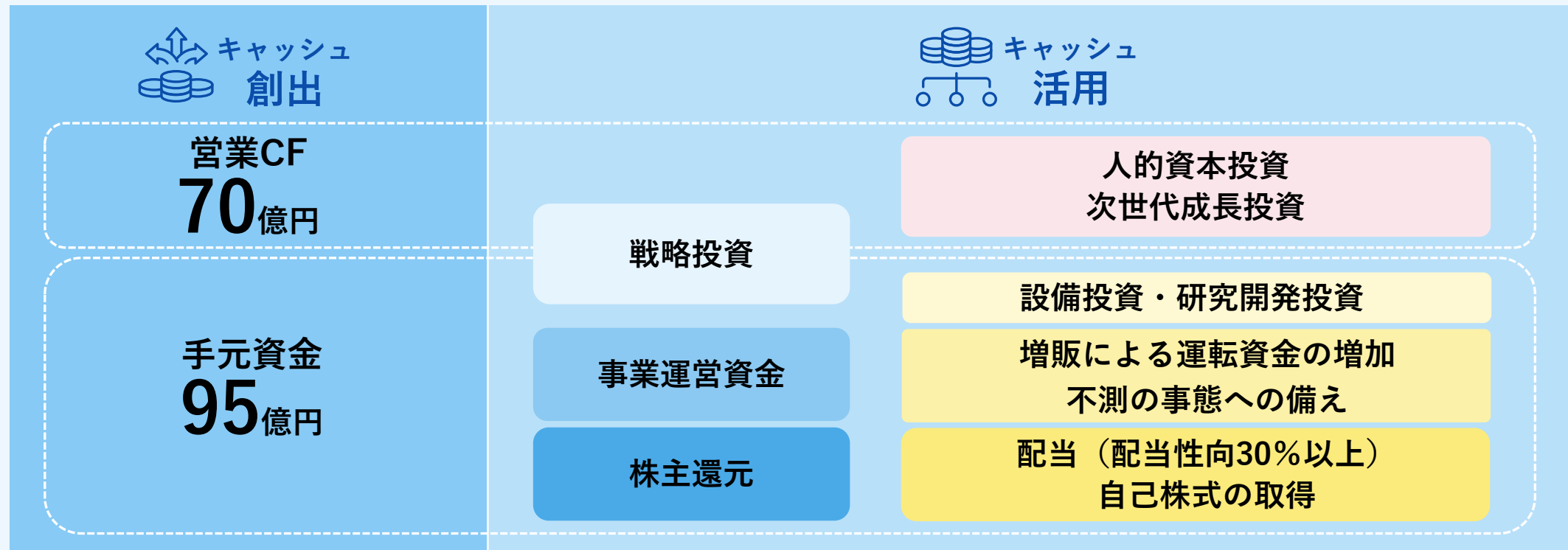
社会課題の解決に貢献できる  
商品・サービス創出のための戦略投資

## 02.

長期視点での持続的成長の  
実現に向けた投資

## 03.

機動的かつ持続的な投資に備え、  
強固な財務基盤を維持しながら、  
ステークホルダーの皆様のご  
期待に沿える取組みを推進



## 企業理念の浸透を軸に、 人的資本強化の取組みを推進

- 「まず、想いとどく」をコンセプトに  
CI・人財育成ポリシーを策定
- 多様な人財の価値観・考え方を活かした  
組織づくり

## キャリアのステージに応じた 階層別の教育制度の充実

- 技術研修(eラーニングも整備)
- 次世代リーダー育成プログラム
- マネジメント研修

## 仕事のやりがい・ 働きやすさの向上に 向けた環境づくり

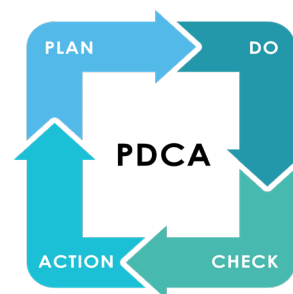
- 創造性・主体性を持った人財を養う  
「イノベーションプロジェクト活動提案制度」

### 進捗

社内各部門の体制強化が進む。現在は、人財育成に重点を置き取組みを推進

### 人的資本強化方針

- ① コーポレート・アイデンティティ（CI）活動の推進
- ② 理念浸透型の人事制度・人財育成ポリシーの整備
- ③ 人財の多様性の確保、ダイバーシティマネジメント
- ④ キャリアのステージに応じた教育制度の充実
- ⑤ 仕事のやりがい、働きやすさの向上などのための環境づくり



施策強化

お客様の想いに届き、  
社会に貢献する  
商品やサービスを  
提供する

欧州を中心とした  
グローバル市場での  
シェアアップ

グローバル規格対応  
(欧州安全基準の完全準拠商品の拡充)

世界各国のトップクラス  
企業をターゲット

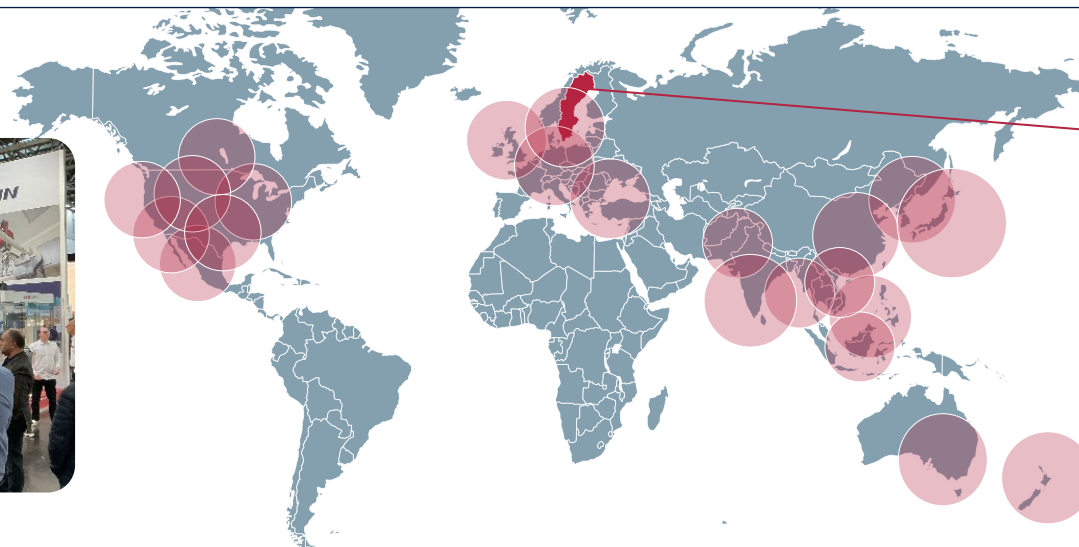
お客様が目指される  
スマートファクトリー  
構築への対応

### 進捗

WEMO社のグループ会社化により、欧州における販売力を強化  
今後は、グループ間連携を一層推進



K2025 (2025年10月ドイツ)



WEMO AUTOMATION AB  
(2023年5月株式100%取得)





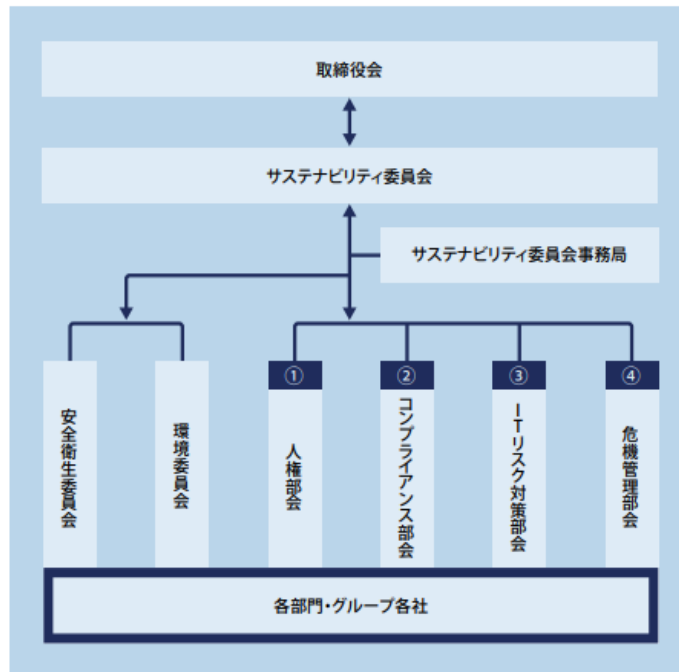
進捗

パレタイジングロボット発売以来、売上高は堅調に推移。当社業績におけるプレゼンスが拡大

## サステナビリティ推進体制の強化

- 2025年3月にサステナビリティ推進体制を強化
- サステナビリティ委員会と安全衛生委員会、環境委員会との連携体制を整理
- サステナビリティ関連の組織横断的なテーマについて部会を設置

### ■ サステナビリティ推進体制図

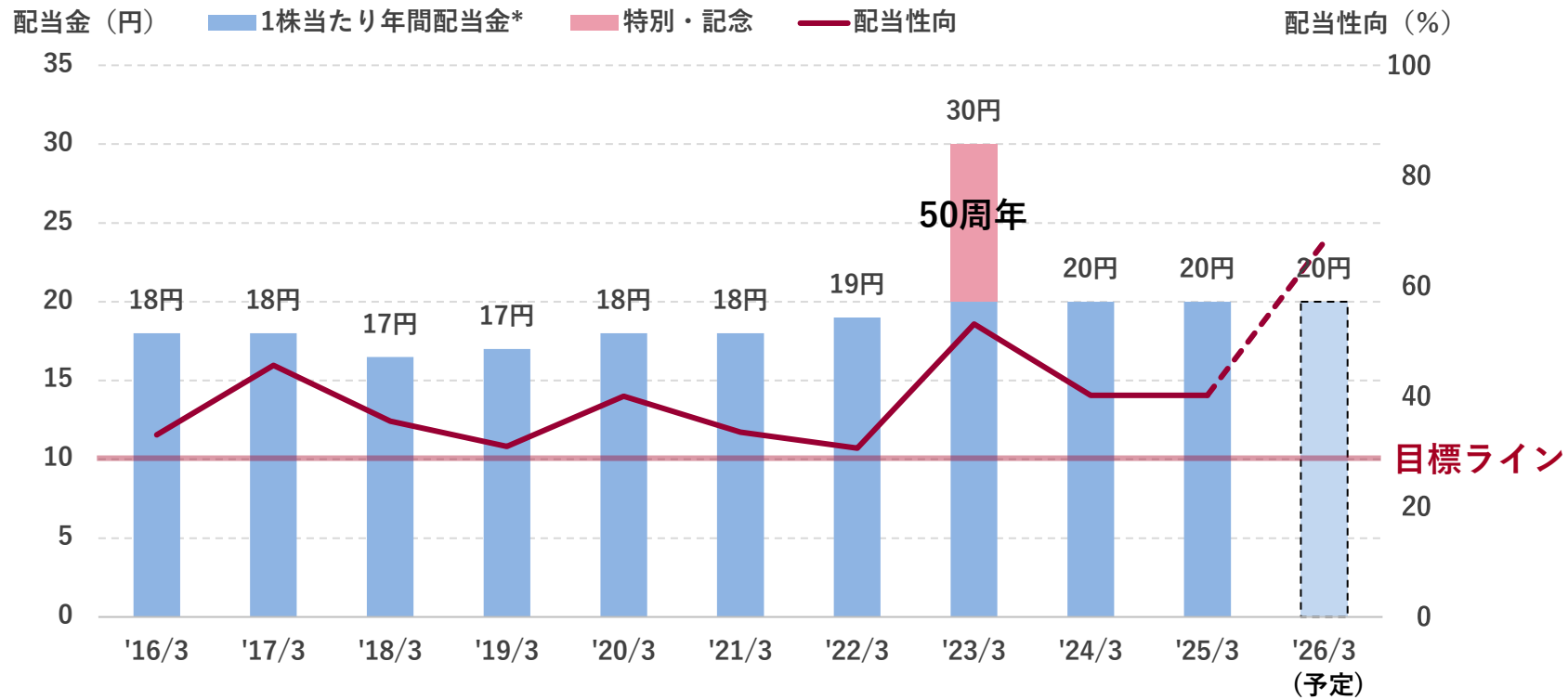


### ■ 各部会が対応するマテリアリティと主な施策

① 人権部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>労働安全性の強化</li> <li>人的資本の強化</li> <li>— YUSHINグループ 人権方針の徹底と人権デュー・ディリジェンスの実施</li> </ul>
② コンプライアンス部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーポレート・ガバナンスの強化</li> <li>— 従業員へのコンプライアンス研修</li> </ul>
③ ITリスク対策部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーポレート・ガバナンスの強化</li> <li>— データセキュリティの向上</li> </ul>
④ 危機管理部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動への対応</li> <li>— 自社拠点およびサプライチェーンの気候変動リスクの洗い出しとBCPの策定</li> <li>人的資本の強化</li> <li>— 働きやすい環境づくり</li> </ul>



- 世界経済の先行きが不透明ではあるものの、成長戦略と株主還元を総合的に勘案し、年間配当予想は**前年同額の20円**に決定
- 資本効率の向上および株主還元の充実のための施策として、**10億円を上限に自己株式取得の実施**を決定



\* 年間配当金は、2018年4月1日付の株式分割(1:2)後ベースに換算したものです。

## 配当方針

**1** 安定的かつ継続的な株主還元を実現するため、配当性向は**30%以上**を目標

**2** 連結業績の向上により、普通配当水準の引き上げを図る

## 参考資料

---

社 名	YUSHIN株式会社
代 表 者	代表取締役社長 小谷 高代
設 立	1973年10月
資 本 金	19億8,566万円
社 員 数	827人 (2025年9月末現在、連結)
連 結 売 上 高	261億円 (2025年3月期)
事 業 内 容	産業用直交型ロボットを中心に 工場自動化に関連する装置・システムの開発、製造、販売
上 場	東証スタンダード市場
証 券 コード	6482
売 買 単 位	100株



技術力

- ・ 高速取出し
- ・ 省エネ
- ・ 提案力

幅広いユーザー層

- ・ 多様な販売先業種
- ・ グローバル展開
- ・ 新業界への進出

人的資本経営

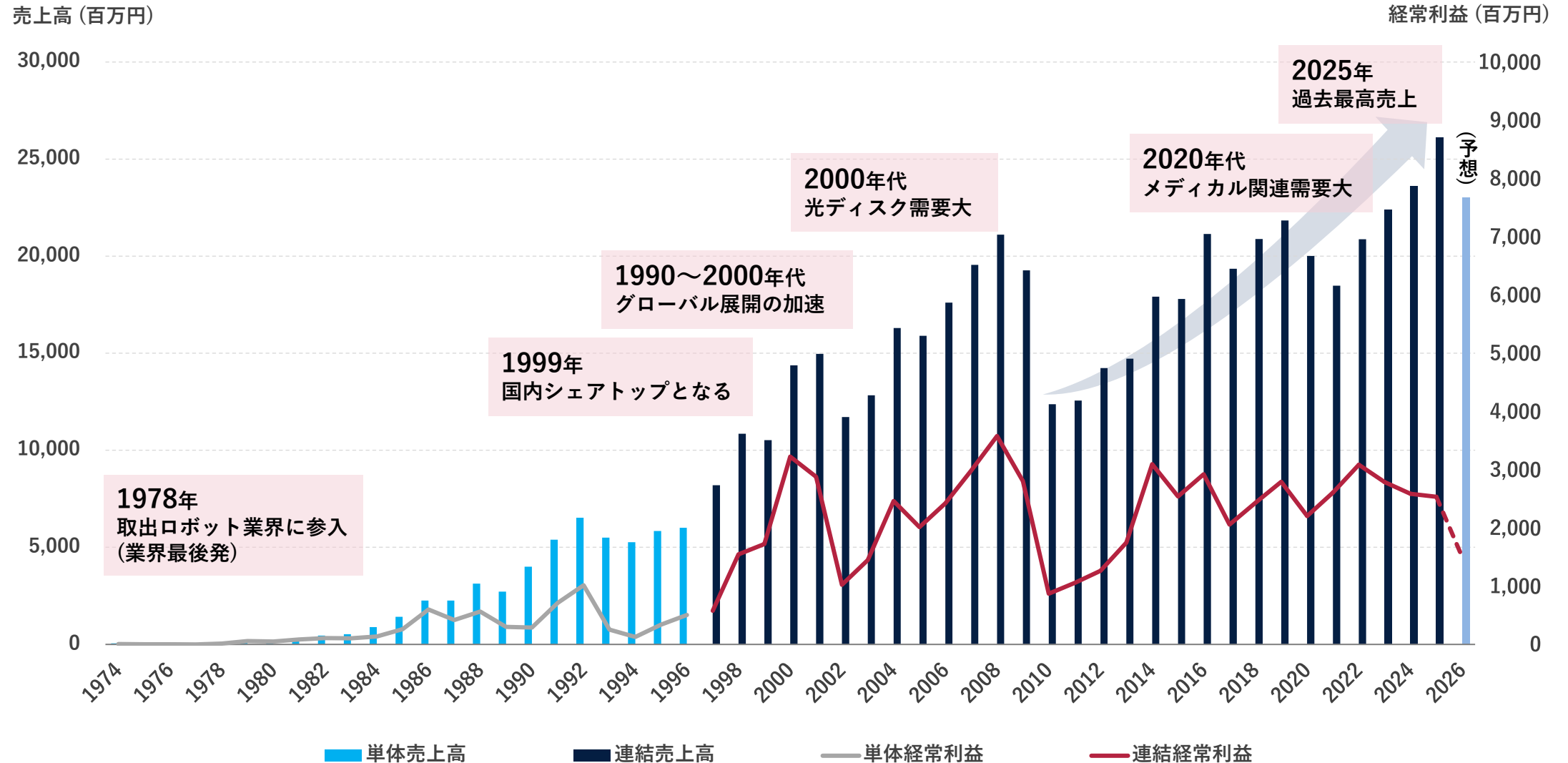
これらの強みを生み出す  
源泉となる  
人的資本の強化に  
注力しています

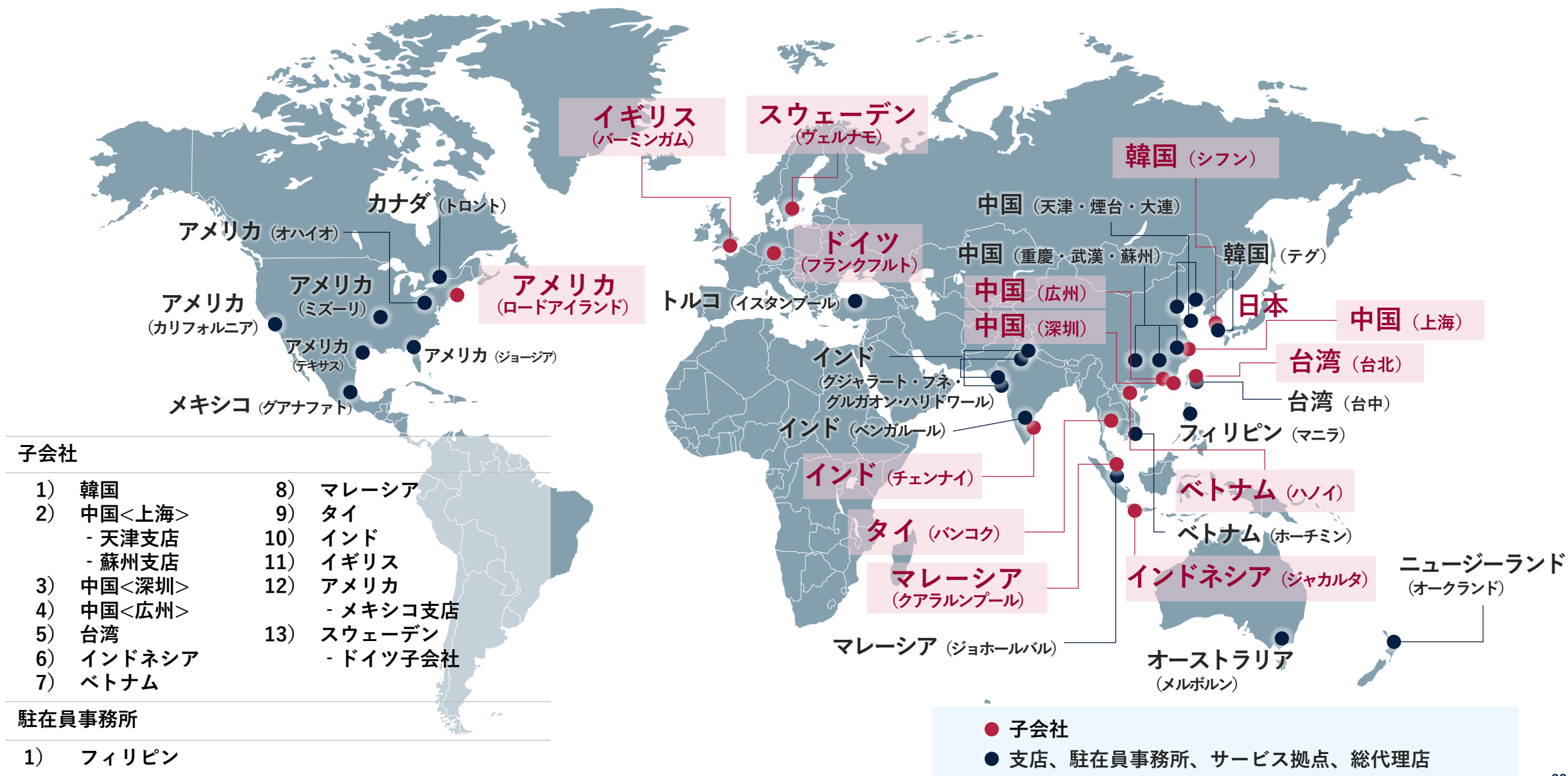
- ・ 業界トップシェア
- ・ 労働安全
- ・ サポート力

信用

財務体質

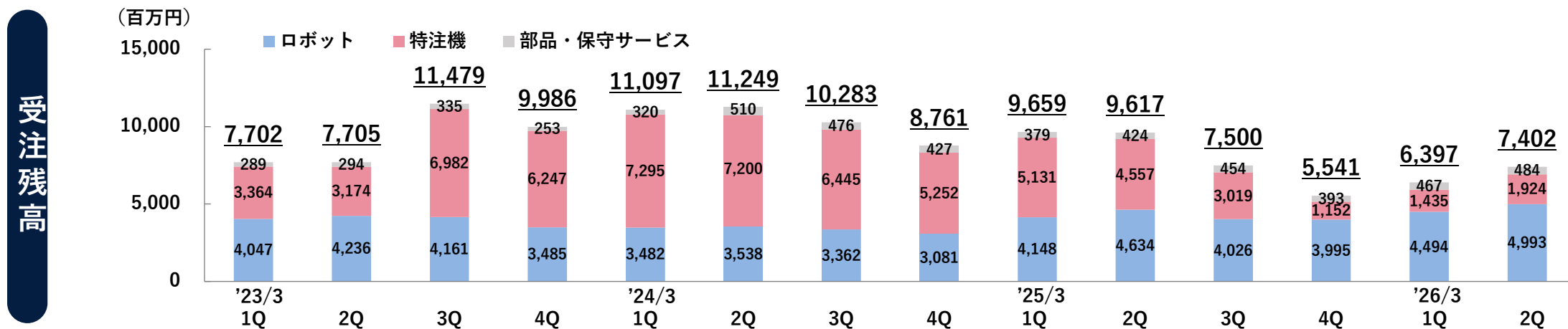
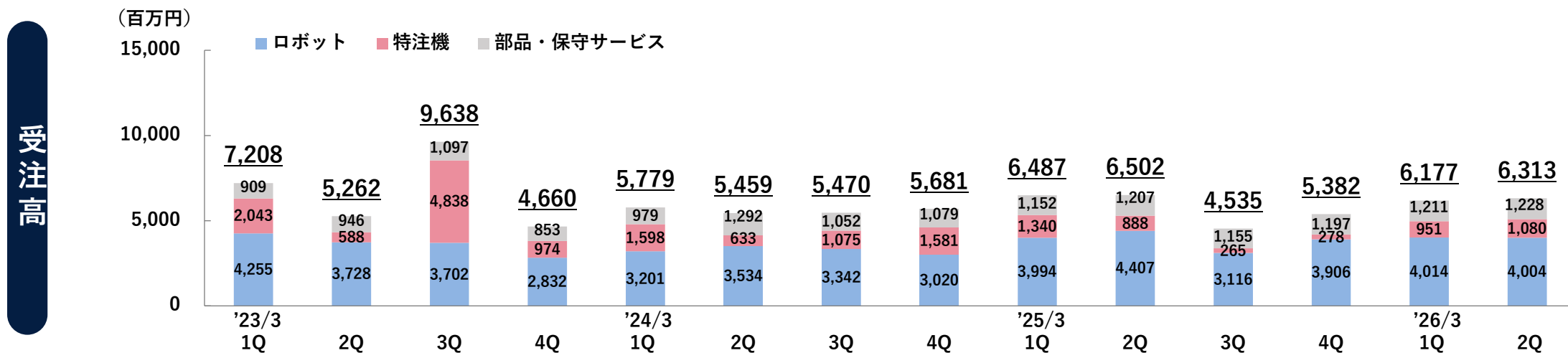
- ・ 強固なバランスシート
- ・ 高い自己資本比率
- ・ ファブライト





# (参考) 受注高・受注残高推移 (四半期毎)

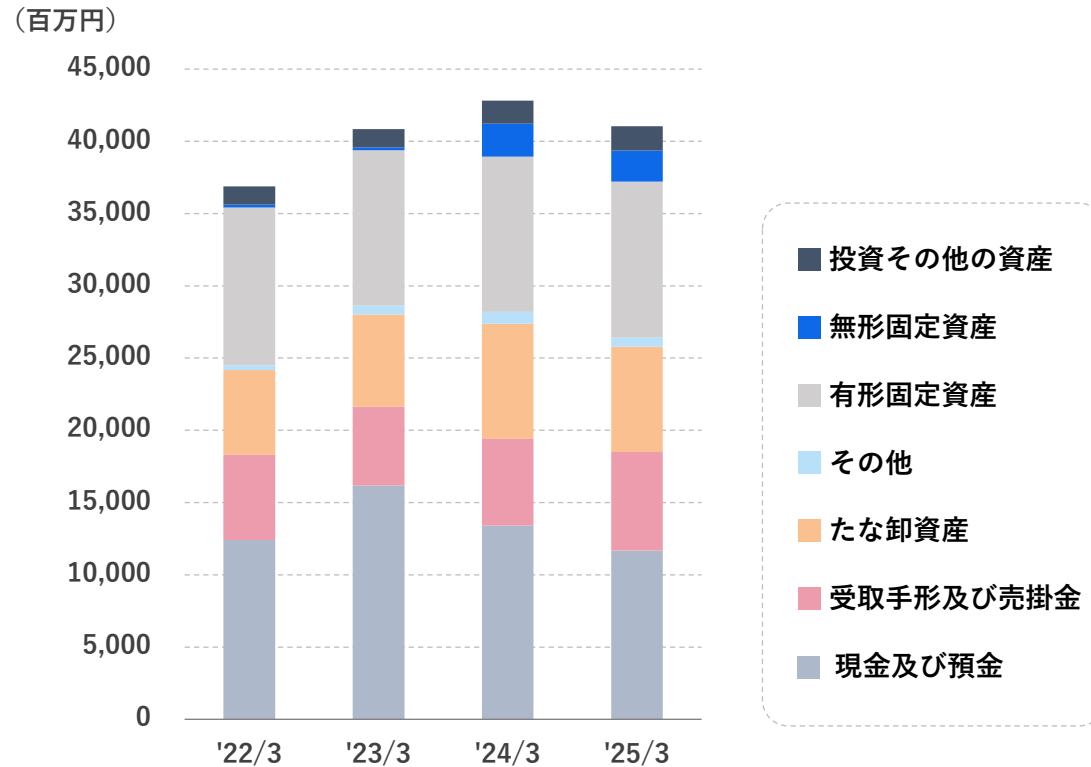
- **パレタイジングロボット**を含む各種ロボットの受注高・受注残高が**堅調**に推移
- **一般特注機**は**堅調**に推移しているものの、'25年3月期までに**メディカル関連特注機**の出荷・検収が進んだことにより、特注機の受注残高が**大幅に減少**



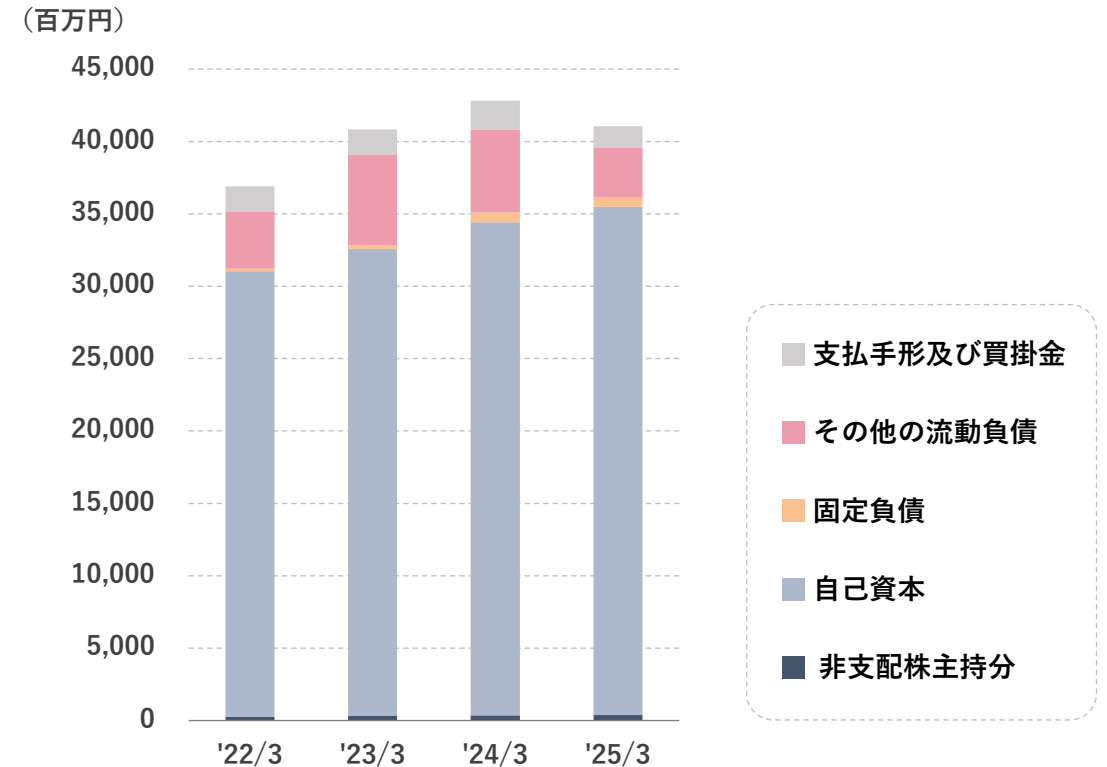
‘24年3月期のWEMO社の子会社化により、  
無形固定資産・たな卸資産が増加

高い自己資本比率、有利子負債ゼロを継続

## 資 産

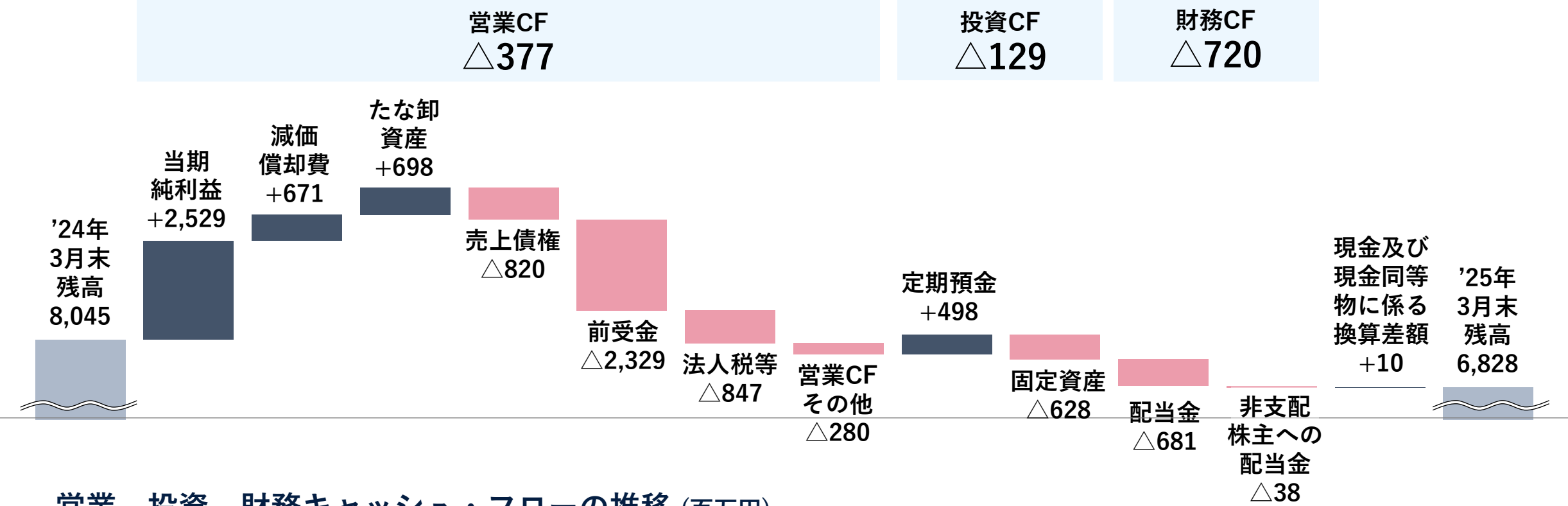


## 負債・純資産





主なキャッシュ・フロー分析 (百万円)



営業、投資、財務キャッシュ・フローの推移 (百万円)

	'20/3	'21/3	'22/3	'23/3	'24/3	'25/3
営業CF	3,558	3,487	2,083	4,605	119	$\triangle 377$
投資CF	$\triangle 1,475$	$\triangle 1,987$	$\triangle 1,341$	$\triangle 299$	$\triangle 2,519$	$\triangle 129$
財務CF	$\triangle 946$	$\triangle 561$	$\triangle 763$	$\triangle 695$	$\triangle 1,070$	$\triangle 720$

## ロボット

### 横走行タイプ

#### FRAシリーズ



#### HSAシリーズ



#### HSTシリーズ



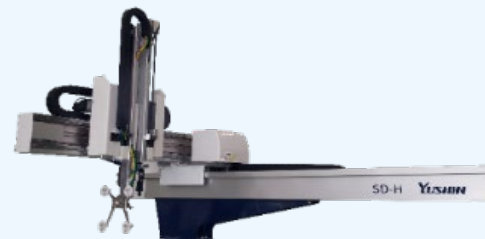
#### RC-SEシリーズ



#### YDシリーズ



#### SDシリーズ



### スイングタイプ

#### HOPシリーズ



### サイドエントリータイプ

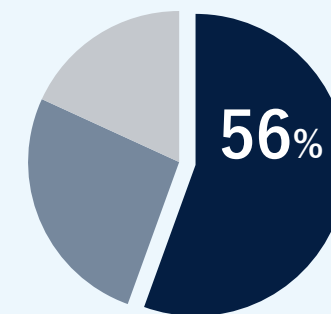
#### TSXAシリーズ



#### パレタイジング ロボット



### 売上構成比



14,509百万円  
(2025年3月期)

## 特注機

大容量タイプストッカ



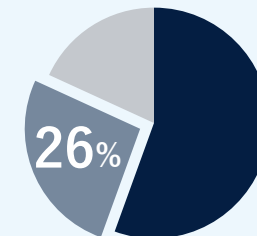
ゲートカットストックシステム



インサートワーク供給



売上構成比

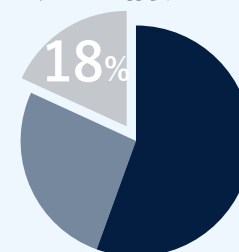


6,872百万円  
(2025年3月期)

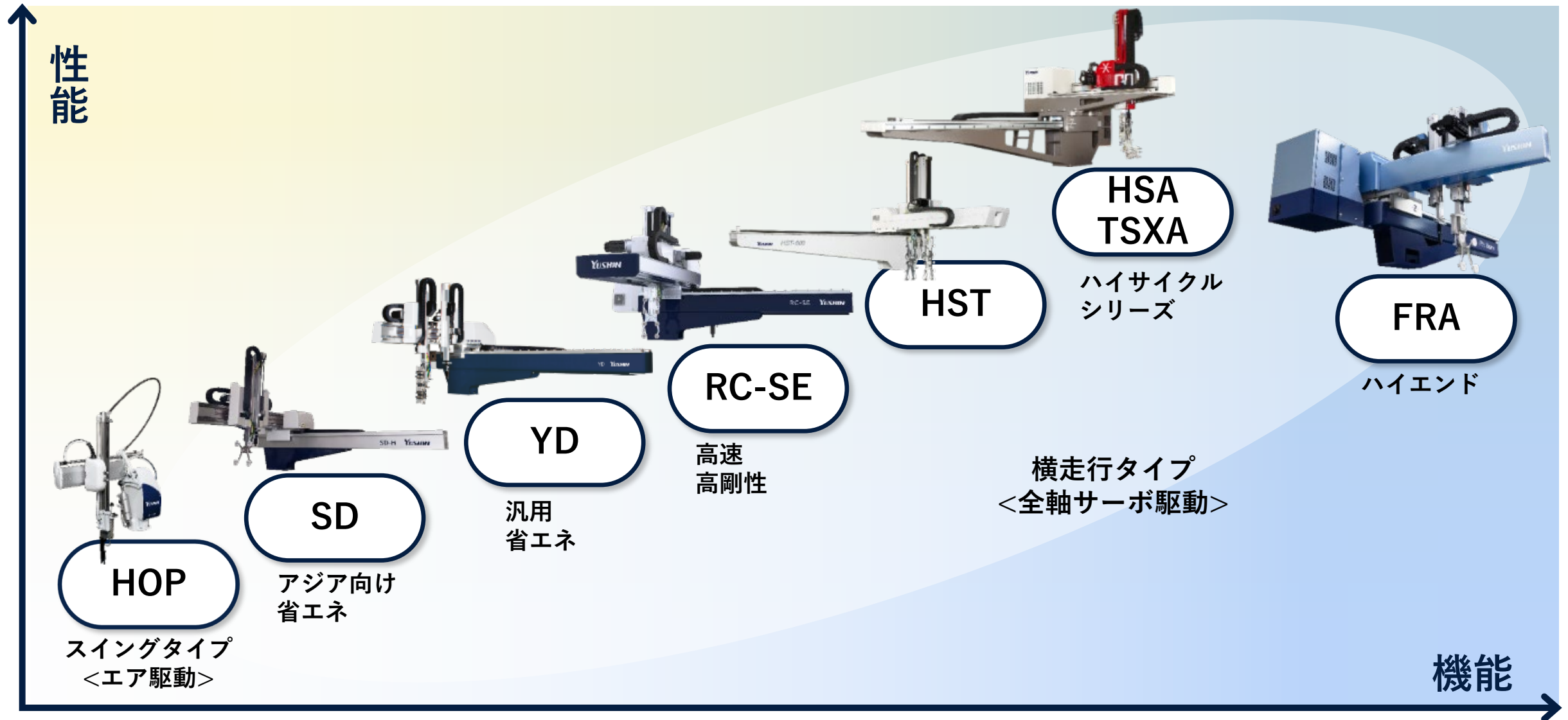
## 部品・保守サービス



売上構成比



4,745百万円  
(2025年3月期)



持続可能な社会の実現と中長期的な企業価値の向上に向けて、  
5つのマテリアリティ(重要課題)を特定しています。

## 事業を通じた社会課題の解決



1. 労働安全性の強化
2. お客様工場の生産性向上
3. 気候変動への対応

### < 主な施策 >

- ・安全性能を高めた商品の開発
- ・労働安全に関するスクール実施
- ・高速、高精度なロボットの開発、販売
- ・環境性能を高めた商品の開発

お客様とともに目指す  
SDGs項目

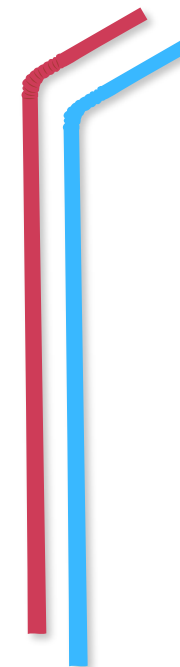
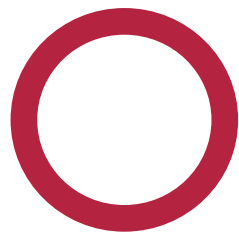


## YUSHINグループの持続的成長に向けた経営基盤の強化



4. 人的資本の強化
5. コーポレート・ガバナンスの強化

- ・イノベーションが起こりやすい風土、環境づくり
- ・それぞれのライフステージに対応した継続的に働ける制度づくり
- ・コーポレート・アイデンティティ(CI)の浸透
- ・取締役会の機能強化
- ・指名・報酬委員会の実効性維持
- ・取締役会の実効性評価





# (参考) 過去10年間の株価推移 (月足)



当社グループの社会的・経済的価値創造の仕組みを示すとともに、マテリアリティへの対応、コーポレート・ガバナンスの実践など、サステナビリティに関する情報を体系的に説明

当社が目指す持続的成長の姿を、ステークホルダーの皆様にご理解いただく



## 主なコンテンツ

- ・ トップメッセージ
- ・ 社外取締役と社外監査役による鼎談  
「変革への挑戦と今後の成長－社外役員が語る経営の現在地と課題」
- ・ 中長期の経営目標と実現に向けた戦略
- ・ 人的資本強化の施策

▶ YUSHINレポート(統合報告書) <https://ir.yushincompany.jp/ja/library/annual.html>





問い合わせ先：経営企画室

(TEL) 075-933-9555 (E-mail) IRinfo@yushincompany.jp

<https://yushincompany.jp>

IRサイトでは、説明会情報や各種資料を配信しています。

<https://ir.yushincompany.jp/ja/Top.html>

こちらからIRサイトにアクセスいただけます。→



**注意事項：**

本資料には、業績に関する将来予測の記述が含まれております。これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により、実際の業績とは異なる可能性があることにご留意ください。

又、本資料は財務情報、経営情報等の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。

本資料の転載はご遠慮下さい。